

平成23年度から使用する小学校用教科用図書選定理由書

種 目	発行者	選 定 理 由
国 語	光村	5・6年については上下巻に分けず、それぞれ合本とし、児童が学習内容に見通しをもつことを重視するとともに、単元の冒頭や手引きにおいて自分の考えをもつことを意識付け、児童が主体的に学習に取り組むことを重視した内容となっている。また、巻末付録は、国語の学習から読書活動へと発展させることが可能な内容であるとともに、補充的な学習や発展的な学習を効果的に進めることができる内容となっている。
書 写	光村	国語の学習と関連を図った教材や読書活動へと発展させることができる内容の取り上げなど、児童が興味・関心をもって書写の学習に取り組むことができるよう構成されている。また、巻頭イラストで1年間の学習内容全体を示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができる内容となっている。
社 会	教出	生活経験と結び付きの深い、北海道や札幌の地域素材を多く取り上げていることや、見開き資料・折り込みページなど学習効果の高い資料を効果的に活用すること等によって、社会的事象の意味を考え、社会生活について理解できる内容となっている。また、学習の流れや各段階における学び方、活動の方法や手順などを示すことにより、問題解決の見通しをもち、主体的に学習することができる内容となっている。
地 図	帝国	地図の成り立ち、地図の読み方や地図帳の使い方及び索引の活用の仕方などを掲載し、地図のよさが分かるとともに、地図の活用の仕方が身に付くような内容となっている。また、札幌中心部の地図などを掲載し、身近な札幌市に対する興味・関心を高めるとともに、北海道の地方別地図に支庁や北方領土を記載し、地理的な正しい理解につながる内容となっている。
算 数	東書	これまでの学習内容を思い出したり練習したりして、次の学習に生かすことができる内容となっている。また、補充する問題が多く掲載されており、高学年においても基礎的・基本的内容を繰り返し学習することができる。学習のめあてを明確に示し、説明や比較する学習活動を多く取り扱っているところなど、全体を通して問題意識と考え方を大切にしたい問題解決的な学習や発展的な学習も重視された内容となっている。
理 科	教出	観察・実験の前後の予想や考察場面に、吹き出しやイラストを活用した子どもの話し合いを多数設定するなど、問題解決の流れを重視し、子どもの問題解決の能力をはぐくむ内容となっている。また、「ふりこ」の仕組みが札幌の時計台に活用されていることや、天気学習において「降雪の仕組み」を取り上げていることなど、北国札幌の地域特性を生かした学習に適した内容となっている。

種 目	発行者	選 定 理 由
生 活	東書	個々の興味・関心に基づき、身近な対象に主体的に働きかけることが可能な内容となっているほか、グラウンドに積もった雪で遊ぶ活動やさっぽろ雪まつりに公共交通機関を利用して参加する活動の提示等、冬季間における学習にも十分配慮されている。また、「子どもの反応」「教師の発問」「活動を深める投げかけ」が、大判の紙面を生かして多様かつ具体的に示され、子どもの興味・関心が高まるような内容となっている。
音 楽	教出	学習活動の支えになる「ポイント」を示すとともに、表現を工夫する内容について、投げかけるような言葉で掲載し、自ら考え自主的に学習できるようにしており、どの児童も思いや意図を言葉で表すなどの学習活動ができる内容となっている。また、音楽を形づくっている要素の取り扱いについては、「音楽のもと」や、そのまとめなどで幅広く示しており、音楽への興味・関心を高められるような内容となっている。
図画工作	日文	札幌らしい特色につながる「雪」や「氷」をはじめ、多くの題材を掲載しており、児童や学校の実態に応じて柔軟に学習を展開することができる内容となっている。また、形や色、イメージについては、児童自身が考えたり気付いたりすることができるページがあり、さらに、「くふう」「かたづけ」「ふりかえり」などの囲みを数多く設けるなど、児童が学習習慣を確立し、意欲をもって主体的に取り組むことができるような内容となっている。
家 庭	開隆堂	衣食住や家族の生活など家庭生活に関する各内容のバランスに配慮しており、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせた後に、それを家庭で実践するよう促す構成となっている。食と環境に配慮した生活や地域とのかかわりについては、小題材を設定して重点的に扱い、日常生活での実践や、家族をはじめとする周囲の人々に対し感謝の気持ちを伝える活動を促す内容となっている。
保 健	学研	学習課題が明示されており、それに基づいて一人一人が課題をもって追求することができる構成となっている。健康のとらえ方について記述した頁を設けたり、健康と深く関係している「食事」「運動」「休養・睡眠」がそれぞれ相互に関連していることをイラストや図で表したりすることにより、新しい健康観について理解を深め、主体的な健康づくりへの意欲や希望をもつことができる内容となっている。